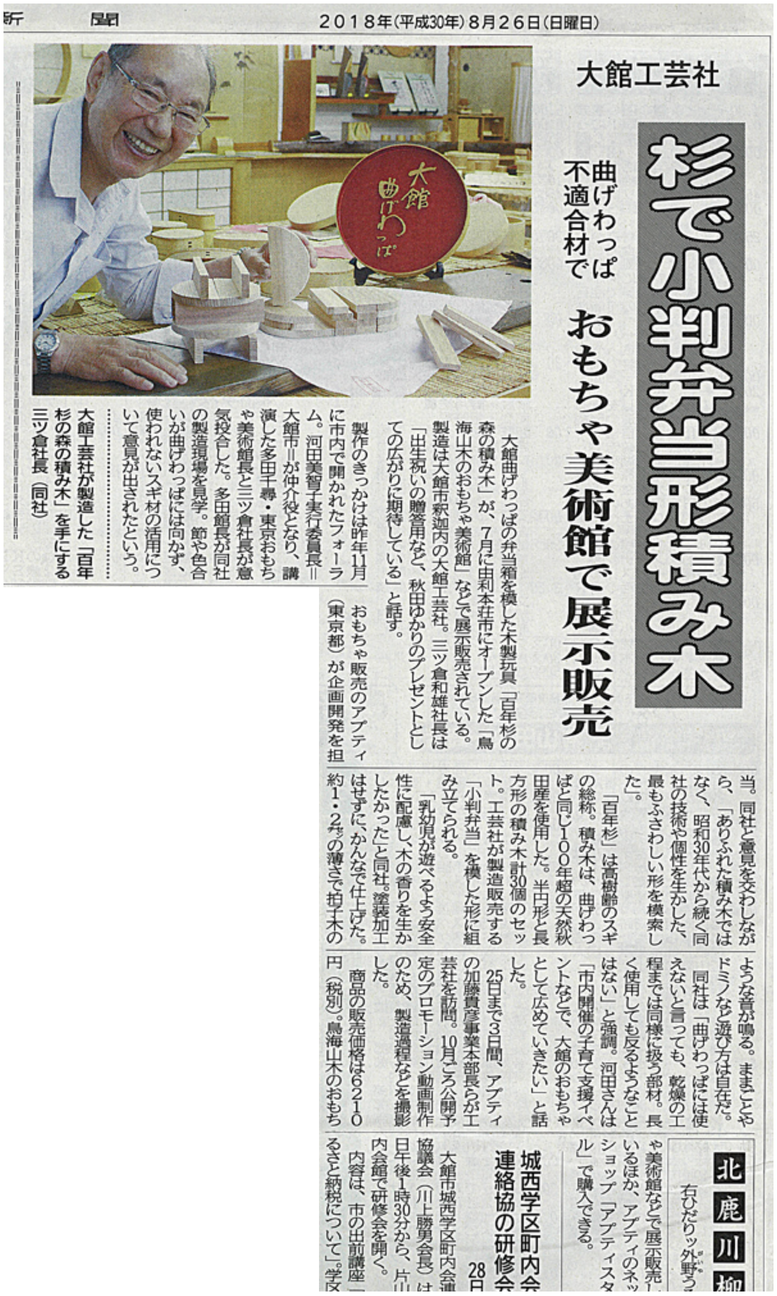
2018 年 8 月 26 日（日）

北鹿新聞に

「百年杉の森の積み木」

が取り上げられました。



新　聞　2018年（平成30年）8月26日（日曜日）

大館工芸社

杉で小判弁当形積み木

曲げわっぱ不適合材で　おもちゃ美術館で展示販売

大館工芸社が製造した「百年杉の森の積み木」を手にする三ツ倉社長（同社）

大館曲げわっぱの弁当箱を模した木製玩具「百年杉の森の積み木」が、7月に由利本荘市にオープンした「鳥海山木のおもちゃ美術館」などで展示販売されている。製造は大館市釈迦内の大館工芸社。三ツ倉和雄社長は「出生祝いの贈答用など、秋田ゆかりのプレゼントとしての広がりに期待している」と話す。

製作のきっかけは昨年11月に市内で開かれたフォーラム。河田美智子実行委員長＝大館市＝が仲介役となり、講演した多田千尋・東京おもちゃ美術館長と三ツ倉社長が意気投合した。多田館長が同社の製造現場を見学。節や色合いが曲げわっぱには向かず、使われないスギ材の活用について意見が出されたという。

おもちゃ販売のアプティ（東京都）が企画開発を担当。同社と意見を交わしながら、「ありふれた積み木ではなく、昭和30年代から続く同社の技術や個性を生かした、最もふさわしい形を模索した」。

「百年杉」は高樹齢のスギの総称。積み木は、曲げわっぱと同じ100年超の天然秋田産を使用した。半円形と長方形の積み木計30個のセット。工芸社が製造販売する「小判弁当」を模した形に組み立てられる。

「乳幼児が遊べるよう安全性に配慮し、木の香りを生かしたかった」と同社。塗装加工はせずに、かんなで仕上げた。約1・2㌢の薄さで拍子木のような音が鳴る。ままごとやドミノなど遊び方は自在だ。

同社は「曲げわっぱには使えないと言っても、乾燥の工程までは同様に扱う部材。長く使用しても反るようなことはない」と強調。河田さんは「市内開催の子育て支援イベントなどで、大館のおもちゃとして広めていきたい」と話した。

25日まで3日間、アプティの加藤貴彦事業本部長らが工芸社を訪問。10月ごろ公開予定のプロモーション動画制作のため、製造過程などを撮影した。

商品の販売価格は6210円（税別）。鳥海山木のおもちゃや美術館などで展示販売しているほか、アプティのネットショップ「アプティスタイル」で購入できる。

北鹿川柳

右ひだりッ外野う

城西学区町内会
連絡協の研修会
28日

大館市城西学区町内会連
協議会（川上勝男会長）は
日午後1時30分から、片山
内会館で研修会を開く。
内容は、市の出前講座「
るさと納税について」。学区

お問合せ先：株式会社アプティ
〒165-0026 東京都中野区新井 2-12-10
Phone　03-5942-9532
Fax　03-5942-5233
e-mail　info@aptytoys.co.jp

※製品の詳細ページは2018年10月中旬頃完成予定です。